

1990年（平成2年）生 / 28才
政党無所属

たかの しん



TAKANO STYLE vol.4

伝えたいことが、あるから。
今日も私はチラシを配り続けます。

苦楽園小・苦楽園中・関学高・関学大（法）卒業
元・阪急不動産（株） / 阪急阪神不動産（株）勤務



たかの しん



@takanostyle



takanostyle

たかのしんの活動。

西宮が、ずっと住みたい街であるために。この街の政治を変える。その役割に人生を捧げると決めた私は、会社を辞めて、昨年10月から政治活動を開始しました。

これまでに3号のチラシを発行し、朝の駅前で、ご自宅のポストへ、1枚ずつお配りしてきました。お届けしたチラシは既に30万枚以上。この活動にこだわるのは、政党や団体の支援を受けない私にとって、自らの言葉で想いをお伝えすることが、何よりの政治活動だからです。

この想いが、一人でも多くの方に届くことを願って。
今日も私はチラシを配り続けています。

市政に挑戦！ 次代の西宮へ。

■PROFILE / 鷹野 伸（たかの しん）

1990年（平成2年）3月生まれ。西宮市立苦楽園小学校・苦楽園中学校・関西学院高等部・関西学院大学法学部卒業。大学在学中、吹奏楽団「甲東ヌーヴェルヴァーグ・ウインドオーケストラ」を設立（初代代表）、進学塾「関学ゼミナール」講師を務める。2012年、阪急不動産株式会社（現：阪急阪神不動産株式会社）入社。約6年半、新築分譲マンション部門にて勤務。2018年、西宮市政へ挑戦する決意を固め退職、政治活動を開始。樋之池町在住。行政書士試験合格者、宅地建物取引士。

【公式HP】 <https://takanoshin.jp>

【E-mail】 mail@takanoshin.jp

【TEL】 070-1524-7109



市内各地で街頭演説を行っています！

たかのしんの主張。

低すぎる投票率。政治への「無関心」を打破したい。

前回の市議会議員選挙の投票率は、わずか36.27%。どこか遠くでやっているもの。多くの方にとって「政治」はそんな存在です。でも、政治と全く無関係に暮らしている人なんて、一人もいません。「誰か特別な人」だけが担うものではないはずです。私は特定の地盤も後援組織もない、普通の元・会社員です。どこにでもいる、地元育ちの若者。そんな私がこの世界に飛び込むことで、まずは政治を身近な存在に変えていきます。

街の課題を知ることが、投票につながると信じて。

政治が身近になったとしても、一人ひとりが選挙に行く必要性を感じない限り投票率は上がりません。そのきっかけを作りたいという想いから私は毎号のチラシで西宮の課題をお伝えしています。知識も経験もまだ足りない初挑戦。政治家になること自体が目標なら、顔と名前を知っていただくだけで良いのかもしれませんが、私の目標は、皆が政治に参加する街を実現すること。だから、この活動スタイルを貫いています。

20代×元・会社員の視点から。市政の方向転換を。

若い世代の投票率が特に低いこともあり、子育て・教育分野の施策は、政治において重視されにくいのが現状です。人口流入・定着のためにも若い世代が住みやすい街づくりは欠かせません。私は西宮市政に新しい世代の声を届け、未来志向の街づくりへと転換を図ります。また、民間企業で働いた経験・視点を活かして、コスト感覚を欠きがちな市役所の改革を進め、課題解決に必要な財源を生み出すことに取り組みます。

政策5 教育環境を整えることは、大人の責任です。

■思いっきり学び、遊べる環境を。

一度きりの子ども時代を、どう過ごすか。それは、その後の人生に大きな影響を与えます。私自身「社会に貢献する仕事がしたい」という想いのきっかけは、友人達や先生方との出会いでした。この街の教育に育てられた私には、それを次代へ継ぐ使命があると思っています。

「教育環境が良い」と思われがちな西宮ですが、実際の環境は課題だらけ。児童・生徒数が急増した学校では、仮設校舎や狭い運動場で過ごす子どもが多くいますし、急な校区変更を強いられた地域もありました。その要因は、人口増に対する見通しの甘さ。同様の事態を招かないよう、厳密な予測と早めの対応が必要です。

大切なのは、学校での時間だけではなくありません。私達が育った頃と比べても、公園で遊ぶ子どもの姿を見かけることが少なくなりました。犯罪の危険性や娯楽の多様化等、致し方ない面もありますが、屋外で思いっきり遊ぶ経験は何事にも代え難いもの。子ども達の遊び場の確保に、市が積極的に取り組むべきと考えます。

■先生方の負担を軽減するために。

学校や幼稚園・保育所の先生は、非常に負担の大きい仕事です。朝早くに出勤し、昼間は保育や授業。その後に事務仕事や授業の準備、中学校・高校では部活動の指導。何かトラブルが発生すれば、その対応に追われることも。私の周囲にも、教職に就いている友人が多くいますが、教育現場は先生方の熱意と頑張りで、何とか成り立っているのが実情と感じます。

先生方に余裕のない環境が、子ども達にとって好ましくないのは明らかです。この過酷な労働環境は先生の離職を招くだけでなく、教職を志望する方の意欲を削いでしまう可能性もあります。先生方が安心して働き、子ども達と向き合うために重要なのは、業務負担の軽減。人員の拡充や適正配置・業務の効率化等を、市全体で進めるべきです。

教育を担っているのは現場の先生方であり、政治家ではありません。その先生方をバックアップすることこそ、政治に求められる大切な役割だと考えます。

政策6 財源も人員も有限。本当に必要な政策への特化を。

■経営難の施設は見直すべきです。

行政の役割は「教育」「福祉」「防災」「道路」といった、市民生活に欠かせないものを提供すること。しかし、今の西宮市の事業には「市民生活に欠かせない」と言いがたいものも多く存在します。

例えば、JR西宮駅前の商業施設「フレンテ西宮」。約10年前、核テナントだったコープが一部撤退し、経営難の危機を招きましたが、その後も市の外郭団体が運営を続けたまま。そもそも商業施設の運営は、民間企業の方がノウハウを有しており行政には不向きな分野です。財政破綻した北海道夕張市をはじめ、外郭団体の経営不振から財政悪化を招いた自治体は多くあります。市は早期に「フレンテ西宮」の運営から身を引くべきだと考えます。

また、「リゾ鳴尾浜」では毎年の実質的な赤字に加えて、今後の維持管理・施設更新に莫大な費用が必要となっています。市民の健康増進という目的は一定理解できますが、地域住民向けの市民プールとは異なりプール利用者



フレンテ西宮



リゾ鳴尾浜

の半数以上が市外在住というデータも。市が多額の費用を投じて存続させる必要性は低く、民間企業への売却・他用途への転用・廃止といった見直しを行うべき時期にきています。

■他にも必要性の低い事業が…

他にも西宮には「都市型観光の振興」等、必ずしも市が行う必要のない事業が存在しています。これらの事業には「その事業による効果は？必要性は？」といった議論なく、事業を行うこと自体が目的になっている傾向を感じます。厳しい財政状況の中、重要性・緊急性の高い政策に財源・人員を投下するためには、事業の「取捨選択」が欠かせません。

【政策】これまでの『TAKANO STYLE』で取り上げた政策はこちら。バックナンバーのお届けも承ります！

政策1 若者が住みたいと思えない街に、未来はありません。

政策2 徹底した行政改革を行い、必要な財源の捻出を！

政策3 市役所周辺の再整備。まずは全体像の提示を！

政策4 増えていく空家。住宅政策は見直しの時です。

★第5号は2月下旬発行予定。「高齢化社会への対応」「ライフラインの老朽化対策」等について取り上げる予定です。

便利な商業施設も、綺麗なプールも、「ある方が良い！」のは当然です（私も利用者ですし…）。でも、行政が運営する以上、その原資は私たちの大切な税金。必要性は厳しく判断されなければなりません。限られた財源を「経営難の施設を維持すること」に使うのなら、今号で取り上げた「子育て・教育への投資」にまわしてほしい。その方向転換こそ、新しい世代が政治を担う意味だと考えています。次代の西宮へー私はこの言葉を掲げ、全力で活動していきます！